

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成 21 年 7 月 16 日 (2009.7.16)

【公表番号】特表 2005-519438 (P2005-519438A)

【公表日】平成 17 年 6 月 30 日 (2005.6.30)

【年通号数】公開・登録公報 2005-025

【出願番号】特願 2003-573674 (P2003-573674)

【国際特許分類】

H 0 1 J 65/00 (2006.01)

C 0 9 K 11/08 (2006.01)

C 0 9 K 11/64 (2006.01)

C 0 9 K 11/78 (2006.01)

C 0 9 K 11/81 (2006.01)

H 0 1 J 61/44 (2006.01)

【F I】

H 0 1 J 65/00 B

H 0 1 J 65/00 C

H 0 1 J 65/00 D

H 0 1 J 65/00 E

C 0 9 K 11/08 G

C 0 9 K 11/64 C P M

C 0 9 K 11/78 C P K

C 0 9 K 11/81 C P W

H 0 1 J 61/44 N

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 21 年 5 月 28 日 (2009.5.28)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

エキシマ放電により紫外放射を発生する装置であって、その放電空間が封入ガスで満たされた少なくとも部分的に UV 透明の放電容器と、該放電空間内にエキシマ放電をトリガし維持する手段と、ホスト格子とネオジウム(III)を活性化物質として含む蛍光体を含有する被膜とを備え、前記蛍光体が MgO、SiO₂ 及び Al₂O₃ からなる群から選択される酸化物を含む被膜を具えることを特徴とする紫外放射発生装置。

【請求項 2】

前記蛍光体は活性化物質としてプラセオジウム(III)を含有することを特徴とする請求項 1 記載の紫外放射発生装置。

【請求項 3】

前記蛍光体は、(La_{1-x}Y_x)PO₄:Nd (ここで 0 < x < 1)、(La_{1-x}Y_x)PO₄:Nd,Pr (ここで 0 < x < 1)、SrAl₁₂O₁₉:Nd、LaB₃O₆:Nd、LaMgB₅O₁₀:Nd、SrAl₁₂O₁₉:Nd,Pr、LaB₃O₆:Nd,Pr、LaMgB₅O₁₀:Nd,Pr 及び GdPO₄:Nd からなる群から選択されることを特徴とする請求項 1 記載の紫外放射発生装置。

【請求項 4】

前記封入ガスは、キセノン、クリプトン、アルゴン、ネオン及びヘリウムからなる群か

ら選択されるガスを含むことを特徴とする請求項 1 記載の紫外放射発生装置。

【請求項 5】

前記封入ガスはキセノンを含むことを特徴とする請求項 1 記載の紫外放射発生装置。

【請求項 6】

前記電極は UV - C 光を反射する金属または合金からなることを特徴とする請求項 1 記載の紫外放射発生装置。

【請求項 7】

前記放電容器の一部には VUV 及び UV - C 光の反射体として作用する被膜が設けられていることを特徴とする請求項 1 記載の紫外放射発生装置。

【請求項 8】

光分解処理に使用することを特徴とする請求項 1 記載の紫外放射発生装置。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0032

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0032】

反射体として作用する被膜の他の好適例は、 MgO 、 SiO_2 、 Al_2O_3 、 $(\text{La}_{1-x}\text{Y}_x)\text{PO}_4$ （ここで $0 < x < 1$ ）、 $\text{SrAl}_{12}\text{O}_{19}$ 、 LaB_3O_6 、 $\text{LaMgB}_5\text{O}_{10}$ 及び CdPO_4 からなる群から選ばれる材料の粒子を含む被膜である。